

Abdalla Saidi Chilanboni (アブダラ)



1968年生まれ Nakapnya出身 20歳でダルエスサラームに来て、車のメカニックの仕事に就いたが、父親の勧めで1989年より、叔父である Saidi に師事し、ティンガティンガ・アーティストに。動物画と共に、村の風景を描く。

「父が猟師で、動物は、自分にとって、とても身近な存在だったせいか、絵を描き始めた時から、模倣よりも、自分のイメージを描くほうが得意でした」

故郷に強い愛着を持ち、「私が描く村の風景は、すべて Nakapnya村の出来事や思い出です。叔父 Saidi から、オーソドックス・スタイルをしっかり習ったので、これからは、自分の故郷の風

景とともに、民族の歴史を、自分の絵の中に残すことで、自分のティンガティンガ・スタイルを作っていきたい」と、熱く抱負を語る。

2012年に初来日、札幌、仙台にて、2015年、横浜、名古屋、三河安城展、山形の各地にて公開制作を行い、人気を博す。

書籍「アフリカの民話集 しあわせのなる木」(2017年未来社刊)民話20篇に、ヤフイドゥはじめ9名のアーティストにより、ティンガティンガ・アートの挿絵が描き上げられ、読者に好評を博す。